大阪女学院大学・大阪女学院短期大学　教員養成センター

〈英語教育リレー随想〉 第 78 号　　2016 年 7 月

教育実習を終えた学生の成長

夫　明美

今年も教育実習の時期がきました。学生たちは与えられたチャンスに一生懸命取り組んでいます。筆者が担当する短大の授業では、指導案作成から模擬授業の実施という「シミュレーション」を行っています。

指導案作成にあたっては、当該レッスンに至るまでの既習事項を踏まえて教材研究を行います。模擬授業では、各学生のデモをビデオで撮影し、後日再生しながら相互評価を行っています。学生自身が「自分のパフォーマンスを客観的にみる」こと、学生が「相互に建設的に批判・助言すること」を目的にしています。

多くの学生はカメラ付き携帯電話で、「自撮り」になれている世代ですが、「授業担当者」としての自分の姿を見ることは、「評価」が加わるためか、不安を感じるようです。また、自己評価のコメントを読むと、「自分の欠点ばかり」記述する学生も数人います。しかし、大半の学生はじっくりと自分とクラスメイトの模擬授業を観察して、建設的な批判や助言を記入しています。また、他者の模擬授業からヒントを得て、教育実習期間の授業や、実習後に行う 2 回目の模擬授業へ改善がみられることも多くあります。

今年は新しい試みとして、授業担当者以外にも数名のオブザーバーをお迎えして、2 回目のデモ授業を行いました。オーディエンスが増えたこと、あたたかい視線を送っていただいたことが良い要因となったのか、学生たちは事後デモで、それぞれに成長が見られました。また、オブザーバーの方々よりコメントや労いを頂戴して、彼女たちには大きな励みになったようです。私自身も授業担当者として新たな観点や、有益な情報を得る良い機会となりました。今後もより良いスタイルに改善を重ねながら継続していきたいです。

（ふ・あけみ/本学准教授）